

## 安全装置（過熱防止スイッチ）が作動した時

電源を抜いてからその原因を除去して下さい。

原因として

- 温風の出口をふさいで風が通らない。
- 吊り下げて使用する時のダクトが折れている。ダクトと床面のすきまがせまい。
- ゴミ等の原因により、ファンが回らない。

等がありますが、必ず原因を確認してその対策を行った後、過熱防止サーモのリセットボタンを押してから通電して下さい。

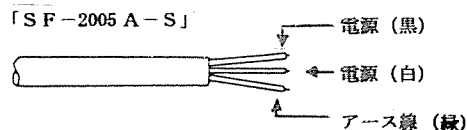
●電気工事は必ず資格の持った工業者に依頼して下さい。

○本機にはAC-200V単相用の「SF-2005A-S」とAC200V三相用の

「SF-2005A-T」とがあります。

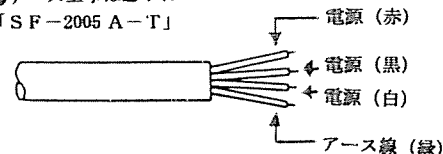
●電源コードの端末形状

「SF-2005A-S」



●アース工事は必ず行って下さい。

「SF-2005A-T」



●ご使用にならない場合は、温室から取り出してホコリ等を取り除き湿気のない場所に保管して下さい。

この度は、総和工業のサーキュレートヒーターをお買い上げいただきまして、ありがとうございます。

必ず、本書をお読みの上、正しい、使用方法で末永くご愛用いただきますようお願い申し上げます。

お取扱方法、お手入れの方法その他ご不明な点があれば下記の住所にご相談下さい。

当社は製品お買上げより1シーズン正常な使用において生じた故障については無償修理をいたします。

お買上げ日      平成      年      月      日

取扱店

製造元 **総和工業株式会社**

〒336-0926 埼玉県さいたま市緑区東浦和5-18-26

TEL048-875-7011

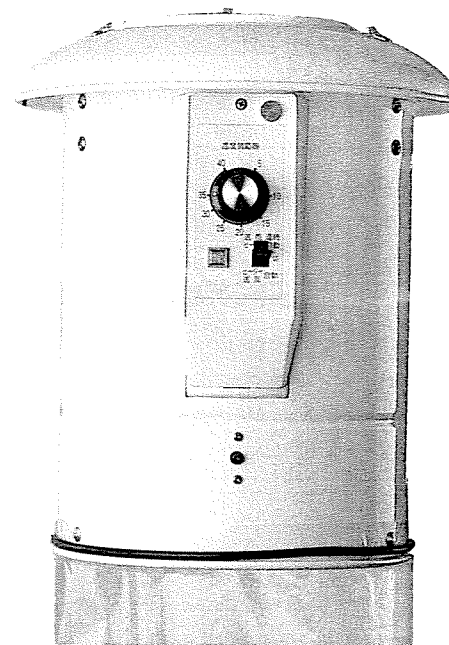
FAX048-875-7015

# 吊下げ式電気温風機

## サーキュレートヒーター

### SF-2005A型

取扱説明書・注意書・保証書



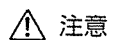
安全のために必ずお守りください。



警告

\* 次のような使用方法は大変危険ですからおやめ下さい。

- 当製品は園芸用温室内での暖房目的以外での使用はできません。他の目的で使用すると温度コントロールができなくなるおそれや、最悪の場合には火災等の危険性があります。
- 電源プラグは緩みのないようにしっかりと差し込んで下さい。緩みがあると抵抗をもち発熱し、最悪の場合には火災になるおそれがあります。
- 温風機の近辺には危険ですので可燃物やスプレー缶等を決して置かないようにして下さい。
- 超音波加湿器との併用は決して行わないで下さい。超音波加湿器を使用すると電極にカルキや石灰の微粒子が付着し、故障や最悪の場合には火災になるおそれがあります。



注意

\* 以下のような使用方法は故障や傷害を起こすおそれがあります。

- 本機やコンセントに水がかからないようにして下さい。ショートするおそれがあります。
  - 安全装置の作動や故障の場合には、温度が上がらない、もしくは温度が上がり過ぎる等が考えられますのでペットなどの生き物には使用できません。
- また、高価な物・愛着の強いものの場合には特に、温度の確認をこまめに行うとともに、予備の器具を併用する等をお勧めします。

## 仕 様

形 式	SF-2005A-T(三相)	SF-2005A-S(单相)
寸 法	直径270mm×高さ330mm	直径270mm×高さ330mm
電 圧・周 波 数	AC200V 三相	AC200V 单相
加 温 方 式	電気ヒーター サーキュレータ式	
温度調節方式	電子式 温度調節器内蔵	
消 費 電 力	2000W	
安 全 装 置	過熱防止サーモ	
重 量	2.7 kg	

## 使用 方法

### ●設置方法

表紙の写真のようにポリダクトをゴムバンドでセットして温室中央部にクサリで取付けてください。

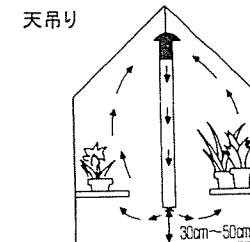
吊り下げたポリダクトは床面より30cm～50cmあけて切り取って下さい。

\* ダクトが折れ曲がったり、出口がふさがれると過熱し、故障の原因となります。

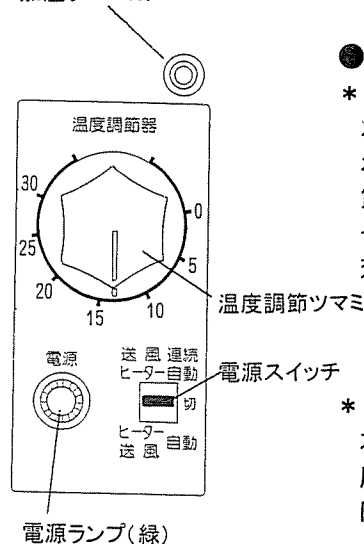
\* ダクトをセットして吊り下げて使用しますと温室上部の暖まった空気を強制的に下方に押し下げ、温室内の上下温度差を解消し暖房費を節約します。

\* ダクトをセットして吊り下げて使用しますと温室上部の暖まった空気を強制的に下方に押し下げ、温室内の上下温度差を解消し暖房費を節約します。

\* 電気料金節約の為、温室の目張りや2重カーテンの使用をお勧めします。



加温ランプ(赤)



### ●運転方法

#### \* 送風連続・ヒーター自動運転

本体の電源スイッチを(送風連続・ヒーター自動)側に入れ温度調節ツマミを希望位置に合わせますと、温度調節器によって自動運転となり、希望温度に達すると、ヒーターだけが止まってファンは回り続け、サーキュレート効果が連続して行うことが出来、節電になります。

#### \* ヒーター・送風(同時)自動運転

本体の電源スイッチを(ヒーター・送風自動)側に入れ温度調節ツマミを希望位置に合わせますと、温度調節器によって自動運転となり、希望温度に達すると、ヒーターとファン両方が同時に停止します。

\* 加温はリニア制御方式ですので、設定温度と室温との温度差が大きいときはフルに加温し(加温ランプは点灯状態)、温度差が小さくなるにつれて加温を弱め(加温ランプは点滅)、設定温度を越えるとヒーターは停止します(加温ランプは消灯)。